

科目名 (科目番号)	総合臨床実習Ⅰ (時間割参照)	教員名 小林 聖美 各実習指導教員	学科等	理学療法	必修	履修年次	4
			曜日・時限等	特殊		単位数	7
			授業形態	実験・実習	オフィスアワー	各担当教員	
授業概要	医療提供施設(病院, 診療所, 介護老人保健施設)もしくはその他の施設において、診療参加型実習を行う。実習期間のうち1週間以上は、通所リハビリテーションもしくは訪問リハビリテーションを提供する施設において実習を行う。この経験を通して個々の症例に対応する能力を獲得する。また担当教員の指導のもと、症例に関する情報を整理した症例報告書を作成する。						
目的・目標	目的:臨床現場において、実習指導者の指導のもとに、対象者への評価・治療法を見学、共同参加、実施の過程を経て学ぶ。通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーションの役割やリハビリテーションマネジメント等について学ぶ。また医療人としての資質を養う。 目標:実習指導者の指導のもとに情報収集、評価、治療プログラムを立案及び治療の実施の過程を体験できる。体験した内容をもとに報告書を作成することができる。						
準備学習							
授業計画	回	授業項目	到達目標・学習内容				
		オリエンテーション	総合臨床実習Ⅰの目的および概要の説明 ・実習関係書類の作成、事務手続き等 ・その他、実習を行う上で必要な事項				
		臨床実習 医療提供施設 又は その他の施設	到達目標:実習指導者の指導のもとに情報収集、評価、治療プログラムを立案及び治療の実施の過程を体験できる。体験した内容をもとに報告書を作成することができる。 学習内容:臨床実習指導者のもと、対象者への評価・治療法を見学、共同参加、実施の過程を経て学ぶ。				
		臨床実習 通所リハビリテーション 又は 訪問リハビリテーション	★総合臨床実習Ⅰの実習期間7週間の内、通所リハビリテーションもしくは訪問リハビリテーションを提供している施設での実習を1週間以上実施する。 到達目標:地域包括ケアシステムにおける通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーションの役割やリハビリテーションマネジメント等について理解できる。これらについての報告書を作成できる。 学習内容:臨床実習指導者のもと、リハビリテーションマネジメントや実施計画書作成等を学ぶ。				
		症例報告書作成・ 症例報告会	到達目標:症例について論理的にまとめ、報告することができる。 学習内容: 【症例報告書作成】実習で担当した1症例について、情報を論理的に整理した症例報告書を作成する。 【症例報告会】実習で担当した1症例について、学内で報告を行う。				
		OSCE	到達目標:基本的な検査・測定、動作介助、動作指導、運動療法について説明し、実施することができる。 学習内容:基本的な検査・測定、動作介助、動作指導、運動療法についてOSCE(客観的臨床能力試験)を行う。				
成績評価の方法・基準	以下の内容をそれぞれ段階化し、総合的に評価する。 ①ソーシャルスキル、②課題(実習ノート、症例ノート、症例報告書、症例報告会)③OSCE						
教科書							
参考図書							
教員からのメッセージ	・実習は患者様と病院・施設の理解がなければ成り立ちません。このことを忘れずに真摯に実習に取り組んでください。3年次の評価実習と同じように、知識と技術の復習や心身の調整を十分に行ってください。また、心配なことがあれば、早めに理学療法学科教員に相談して解決してください。 ・実習地調整の都合上、一部性別の記載を求める書類があります。						